

諏訪湖の貧酸素対策に係る検討事項

○貧酸素対策の場所について

- ・湖心域は夏場の成層形成により、沿岸域はヒシ繁茂により貧酸素状態がつくられており、貧酸素対策はどこを中心に実施すべきか。

○貧酸素対策の範囲について

- ・湖心域、沿岸域（H28：ヒシ最大繁茂面積 150ha）に対し、どの範囲の対策が必要か。
- ・承知川河口～諏訪市湖畔公園、新川河口付近は例年ヒシが高密度に繁茂。

○貧酸素対策の改善程度について

- ・底層溶存酸素量の環境基準は3段階で示されており、類型当てはめには保全対象種の選定が必要。
- ・湖心域、沿岸域はそれぞれどの程度の貧酸素の改善を目指すべきか。

○生態系への影響について

- ・ヒシ除去により、魚の生息場所となる湖内の物理的空間の確保が可能。
- ・ヒシ除去により、野鳥の営巣場所、水生昆虫の産卵場所が喪失。
- ・覆砂による底質改善により、シジミなど底生生物の生息場の復元が期待。
- ・機械力による対策により、生態系への影響はどうか。
- ・下流域（天竜川）への底層水放流により、生態系への影響はどうか。

○その他

- ・ヒシ除去により、景観、悪臭問題、船舶の運航障害の改善が期待。
- ・覆砂（浅場の造成）により、湖水浴場の整備とも連動可能。
- ・釜口水門のゲート操作、湖外排出による河川管理上の検討が必要。